

ヤジ首相

早く質問しろよ

野党口調を問題視…質疑一時中断

平和安全保障関連法案の審議が始まった衆院平和安全法制特別委員会で、安倍晋三首相（60）や担当閣僚の「言葉」が問題視され始めた。首相は28日、民主党の辻元清美議員（55）に自席から「早く質問しろよ」とやじを飛ばし、一時審議が止まった。野党は、首相の答弁の長さや、強引に答弁に立つ姿勢も問題視している。中谷元防衛相も27日の自身の発言をめぐり謝罪に追い込まれたほか、あいまいな答弁から、格好の「ターゲット」にされる場面もあった。

飛び交う怒号

首相の「暴やじ」が飛び出したのは、辻元氏との質疑終盤。持論を展開する辻元氏に、「早く質問しろよ」と発言した。辻元氏は「一国の総理が、早く質問しろよとは何事か」と、その口調を問題視。野党の怒号が飛び交い、浜田靖一委員長は「いったん質疑を止めます」と宣言した。

再開後、辻元氏は「答弁はもう結構です。人の生死に関わる話をしているのに、早く質問しろとは。情けない気分です」と語ったが、騒動はその後も続いた。次に質問した民主党の緒方林太郎議員に「総理は答弁が長く、当てていないのに答える。反省の弁を」と

求められた首相は「（答弁者の）指名権は（質問する）委員ではなく委員長にある。勉強した方がいいですよ」と、挑発。再び、委員会室は騒然となった。首相は「丁寧に分かりやすく答弁している」と釈明した上で、辻元氏へのやじについて「時間がきたのに延々と自説を述べ、私に答弁の機会を与えないので、早く質問しろと言った。言葉が強かったとしたらおわびします」と謝罪。辻元氏は、「前代未聞ですよ」とやじを飛ばした。

法案審議での首相答弁には、野党が「聞いてもないことを長々と答える」と批判を強める。辻元氏は「指名した時に答えず、指名していないのに答える。首相はどしりしていた方がいい」と指摘したが、首相は、野党のやじにも反論することが多い。中谷氏の答弁で審議が止まることも多く、強引に「代打」を志願する場面もしばしばだ。

首相は委員会冒頭、浜田委員長に「簡潔な答弁を」と注意されたが、変化はなかった。「私は（法案を提出した政府の）最高責任者として責任がある。最終的に答弁するのは私だと思ろ」と強調したが、肝いりの法案の審議で、首相の「口」が災いのもととなる可能性もある。（中山知子）



「何事か」
「反省の弁を」
「聞いてもないことを長々と」
「前代未聞」
「情けない気分」

ワビ首相

「言葉が強かったとしたらおわびします」

★南シナ海では中国のほか、ブルネイ、マレーシア、フィリピン、台湾、ベトナムが領有権を争っている。中国が南シナ海で行っている埋め立てや人工島の建設には、米国の同盟国を含む他国も警戒を強めている。つまり、今南シナ海とその周辺海域は軍拡競争が始まり、

「上から目線」
中谷防相が謝罪
○この日の審議で、中谷防衛相が民主党の「ターゲット」になり質問が集中した。後藤祐一議員は「今の自民党の中でリベラル（的な立場）といわれる中谷さんに話をしてほしい」と説明したが、狙いは別だ。首相同様、質問に正面から答えず、内容もあいまいとして審議が止まることも多く、後藤氏との質疑も4度止まった。27日には、維新の党の柿沢未途幹事長が「武力行使と武器使用の違い」を国民に説明するよう求めた際、「その違いが分からない」と議論できませんよ」と、上から目線で発言。28日の委員会冒頭「大変不適切で申し訳ない」と謝罪したが、担当閣僚としての資質を問う声も出ている。

安保法制の衆院特別委で、民主党・辻元清美氏（左）と対決する安倍晋三首相（右）（朝日新聞）